令和7(2025)年播種　十勝農試定期作況報告　秋まき小麦

月	作況	事由
令和7年 10月20日	平年並	播種期は平年より3日遅く、出芽期は平年より2日遅かった。葉数、草丈および茎数は平年並で、生育は順調である。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
令和8年 5月20日	平年並	根雪始は平年より7日早く、根雪終は1日遅く、積雪期間は8日長かった。雪腐病の発生はわずかで、越冬後の生育状況は良好であった。起生期の茎数は平年並である。4月以降の気温は4月下旬を除いて高く推移した。草丈は平年並で、茎数は平年より少ない。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
6月20日	やや良	出穂期は平年より1日早かった。平年と比べて、草丈はやや長く、茎数は多い。 以上のことから、現在の作況はやや良である。
7月20日	やや良	成熟期は平年より1日遅かった。平年と比べて、稈長はやや長く、穂長は同程度で、穂数は多かった。7月上旬以降の雨で倒伏が"微"程度発生した。 以上のことから、現在の作況はやや良である。
8月20日	良	容積重、千粒重は平年をやや下回ったが、2.2mm篩上率は平年並で、子実重は平年比128%であった。 以上のことから、現在の作況は良である。
11月20日	良	播種期は平年より3日遅く、出芽期は平年より2日遅かった。根雪始は平年より7日早く、根雪終は1日遅く、積雪期間は8日長かった。雪腐病の発生はわずかで、越冬後の生育状況は良好であった。起生期は平年並であった。4月上旬から5月下旬の気温は4月下旬を除いて平年並から高く、出穂期は平年より1日早かった。茎数は、越冬前から平年並か平年を下回って推移したが、6月に十分な降水量があったことから最終的には上回った。6月下旬から7月上旬は気温が低く推移したため登熟はやや緩やかになり、成熟期は平年より1日遅く、登熟期間は平年より2日長かった。平年と比べて、稈長はやや長く、穂長は同程度で、穂数は多かった。7月上旬以降の雨で倒伏が"微"程度発生した。容積重、千粒重は平年をやや下回ったが、2.2mm篩上率は平年並で、子実重は平年比128%であった。検査等級は、1等であった。 以上のことから、本年の作況は良である。

生育データ

品種名		きたほなみ		
項目/年次		本年	平年	比較
播種期(月日)		9.24	9.21	3
出芽期(月日)		9.30	9.28	2
起生期(月日)		4.2	4.2	0
出穂期(月日)		5.31	6.1	△ 1
成熟期(月日)		7.17	7.16	1
葉数(枚)	10月20日	3.5	3.8	△ 0.3
草丈(cm)	10月20日	19.1	21.6	△ 2.5
	5月20日	56.3	54.1	2.2
	6月20日	96.8	91.4	5.4
茎数(本/㎡)	10月20日	609	634	△ 25
	11月15日	1,180	1,403	△ 223
	起生期	1,806	1,853	△ 47
	5月20日	1,022	1,386	△ 364
	6月20日	834	751	83
成熟期	稈長(cm)	85	80	5
	穂長(cm)	8.5	8.8	△ 0.3
	穂数(本/㎡)	831	737	94
子実重(kg/10a)		1029	802	227
同上対平年比(%)		128	100	28
容積重(g/L)		831	846	△ 15
2.2mm篩上率(%)		95.3	94.0	1.3
千粒重(g)		37.9	39.0	△ 1.1
検査等級		1	1	−

備考1) 平年値は、前7か年中、令和3年収穫(豊作年)および令和4年収穫(凶作年)を除く5か年平均。年次は収穫年。
2) △は平年より早、少、短、軽を表す。

耕種概要

一区面積(㎡)	区制	前作物	畦幅(cm)	播種日(月日)	播種量(粒/㎡)
9.6	4	アカクローバ	30	9.24	255

肥料名	施用量(kg/10a)	要素量(kg/10a)				備考
		N	P_2O_5	K_2O	MgO	
S502	80	4.0	16.0	9.6	4.0	基肥
硫安	38	8.0				追肥(4/23)
硫安	19	4.0				追肥(5/21)